

ニュースレター雪氷北信越

No. 48

平成 8 年 3 月 15 日

(社) 日本雪氷学会北信越支部発行

目次
第 4 回 理事・幹事会合同会議報告／講演会・学習会・講習会・観察会報告／
見学会の案内／話題／ニュース／新刊ニュース／支部賞／機関誌／第 9 回 総
会、研究・製品発表会案内

報告

平成 7 年度第 4 回理事・幹事会合同会議

平成 8 年 3 月 8 日(金)15 時 40 分より長岡技術科学大学建設系会議室において、平成 7 年度第 4 回支部理事・幹事会合同会議が開催された。議事概要は以下のとおりである。

- ① 平成 8 年度予算について会計からの報告が行われた。
- ② 平成 8 年度の役員については、次回までに案をつくる。
- ③ 支部会員以外の学会員で本支部の出版物(ニュースレター、雪氷北信越)購入希望者については、今後、年間 1000 円を郵送料として負担してもらうことが決まった。
- ④ 第 9 回北信越支部総会および研究発表・製品発表検討会を、6 月 8 日(土)長岡で開催することが決まった。

講演会

講演会「中央アジアの雪水文過程について」の報告

平成 8 年 3 月 8 日(金)、新潟県立大学サンダーバレー校地球システム科学研究所(前ロシア科学アカデミー地理研究所氷河気候研究室長)のウラディミール・ア化博士(現在、学術振興会の招きで新潟大学、岩手大学に滞在中)による、標記の題の講演会が長岡技術科学大学機械建設系会議室で開催され、36 名の出席者があった。同氏の話は、中央アジアの中国、カザフスタン共和国、キルギス共和国、タジキスタン共和国の 4 国にまたがる天山山脈の後退する氷河の実態、水収支の不思議、高山帯での雪水文観測、等を珍しいスライドを交えて行われ、聴衆を魅了した。

(早川支部長 記)

学習会

新潟地区学習会の報告

日時：平成 8 年 2 月 8 日(木)17:30～19:00

場所：農林水産省北陸農業試験場

講師：北陸農業試験場 横山宏太郎(第 35 次南極越冬隊長)

題目：南極の一年

まず日本の南極観測の歴史や現状、ついで南極観測と地球環境との関係についての簡単な紹介があった。それから約 100 枚のスライドの上映に移り、日本出発から南極の氷海、夏の作業、昭和基地の設備と生活、オーロラやペンギンをはじめ南極の自然、等々の映像を見ながら、南極での一年間の越冬生活と観測・作業のさまざまな面が映し出された。後半には内陸 1000km、標高 3800m のドームふじへの旅行と基地建設のスライドにより、過去 20 万年の地球環境の変化を探索する深層掘削計画の現状が紹介された。

1 月末からの大雪が一段落したところで、会員各位は研究に業務に忙しかったものか参加者は 8 名と寂しかったが、熱心に聴いていただき、また活発な質疑応答もあったので、担当者

(横山理事 記)

講習会

富山地区講習会
「雪を観る—観測と講演」の報告

し、出た、たい観3も
載が実施、まつ面月
掲者て更。に断2問
も望し変た。雪ては
に希更にっのっ日て
聞加変一行山と施っ
新参をタを富に実た
、で容ン測ら生。あ
しど内セ観が学たに
定なび化面な。れ施
予報及文断見名ら実
を警所学のを7せど
と雪場科で示に寄ない。
こ大、市園展心が更た
うのり山公る中想変き
行日な富るすを感のい
て前くらす関生の然て
せとなか接に学と突し
わ雪少家隣雪のた、と
合大てのや、学っお訓
をのっ然察め大かな教
会りあ自観や山深。の
演ぶが年鏡り富味00。
講年ど少徴取は興16か
と10な山頭を者り〜れ
会、る立の演加ありこ
習が、めは片講参で13:30
講たや所雪は。て13:で
はっり場のでだめ)のの
当も取。で面ん初土た
て席し屋内て測日あ

(石坂幹事 記)

講習会

新潟・長野地区
「積雪観測法講習会」報告

雪にらなよあ導す、
岡部か鮮おで指調き、
長支東新お件な強だ
庁西関の温熱心をた
術以が君気然熱とい
技東数諸自でこて
学関半生cm、なトるっ
科はち学20適ヤがあわ
会回の12最が加
会今の学はキ性に
習名大雪に華様導
講た4馬積測豪多指
法れ1群の観のに
測さ者、日面名法特
観催みが、当断6定に
雪開込た。と下測氏た。
積りしった雪以の里いる
区通申あつめ長率香だみ講改
地定てであら事水由たをなに
野予つ名がざ幹含内い果壁々
長てあ2の、一に竹て結完方
・いが1も雪十特としの。の
渦お斐はるり八は氏習トた員
新に甲者張ま藤回久講一い所
）所た加見し遠今克をケだ究
土究し参を、は。島法んた研
（研い実目雪陣た。河定あいと
日験願。は新師れ、測のを所
24実おたに、講さにな者価究
月災をっ心℃。開めめ講評研
2防報あ奇0た展た踐受け験
氷広で好そつがる実 高実

(田村幹事 記)

観察会

雪氷観察会の報告

支2者げ 礎どにと せんこ
越も加あ 基な琴り ます。せ
信年参あ の学木た きます。
北今参あ の見をみ できす。
会をた。悲 いのトて ふう
学をしい つ置マて はよ
水所まし に装ト立 とたす。
雪究しれ 氷送ニみ こきま
本研施う と輸ミ組 るでい
日験実同 雪玉とを すがて博
（防お催 験、雪ナて 測とっ
社災い者 験、ナ立 観こ練
：氷に主 低温搜たで 一学画
催雪所・ のコ凍ナ 一しら
主岡究師 50℃ーバ レ楽か
（長研講 のコ凍ナ 一しら
会：験、 50℃ーバ レ楽か
察力実え、 50℃ーバ レ楽か
観協災数、 50℃ーバ レ楽か
氷館氷名し見の容りし雲にた
雪館氷名し見の容りし雲にた
る物雪2まの面内たま雪候し
あ博岡4り一断じみみら天施
つ学長てたダ雪同ててが分実
つ科にしあ一積ぼししなもの
り立）増にレ、ほらも念そ冬
な市日も導、義と鳴夫残、来
と岡（に指は、講年て工はがで
例長日年ら容の昨てた年たい
恒・11昨が内識、立っ今し勢
部月はな 知で見い での

見学会

雪形ウォッチングのお知らせ

雪形研究会では、昨年の「北アルプス雪形ウォッチング」が好評につき、今年
は新潟県中・下越地方の雪形ウォッチングを企画しました。新潟県には全国的
に名の知れた雪形はありませんが、昔から米どころで豪雪地のため、農
事暦としての雪形が数多く伝承されており、数では日本一多いと言われ
ています。「雪氷」Vol.57, No.4のヒッシュェル雪氷豆辞典に掲載された「八
海山の豆まき入道」や粟ヶ岳の入り組んだ雪形、「清水の日輪」などを
実際に自分の目で見る絶好の機会であります。会費等詳細は未定ですが、
参加希望の方は下記まで、葉書、FAX、または電話にてご連絡下さい。

記

日 時：1996年5月18日（土）～19日（日）

場 所：新潟県中・下越地方

エブリサシダケ

越後三山－守門岳－粟ヶ岳－五頭山－二王子岳－杵差岳

参加費：未定

連絡先：〒948 新潟県十日町市辰乙614

森林総合研究所十日町試験地 遠藤八十一

TEL & FAX 0257-52-2360

案内

雪氷フォーラムのご案内

（社）日本雪氷学会関東・中部・西日本支部主催の雪氷フォー
ラムが下記の通り開催されます。

記

日 時：平成8年4月26日（金）15:30～17:00

場 所：飯田橋会館（JR飯田橋駅前）

TEL.03-3263-7711

題目及び講師：

『1995年ネパール・ヒマラヤの雪崩について』

伏見碩二氏（滋賀県立大学）

懇親会：17:00～19:00（会費：5,000円）

支部賞

1996年度支部賞授賞候補者推薦の申出について

1996年度支部賞授賞候補者の推薦には、支部の理事および評議員が、
下記の項目を記載して4月10日までに書類を支部事務局へ提出するこ
ととなっております。

候補者にお心当たりの方は、期限に間に合うようにお近くの理事あ
るいは評議員へお申し出下さい。

記

- (1)雪氷技術賞、大沼賞、雪氷功労賞の区別。
- (2)推薦者の氏名、所属、職名。
- (3)授賞候補者の氏名（または団体名）、所属、職名。
- (4)推薦理由書（○○○の功績などの授賞表題を掲げ、800字ほどにま
とめたもの）。
- (5)上記の理由書を証明する関係書類があれば添付する。

- ・兵庫県南部地震における高速道路の復旧について：
日本道路公団大阪管理局 伊藤 譲
- ・有馬温泉でみた岩なだれ：
アジア航測(株)関西生産技術部 船越和也
- ・第24回雪氷フォーラム「雪と氷の世界」開催の報告

田代博・藤本一美・清水長正・高田将志 著
山と溪谷社/A5判/247頁/定価1,500円

本書は、「ヤマケイ登山学校シリーズ全21巻」の一つとして本年1月に出版されたものである。このシリーズは、登山技術教書リストのよきものであり、4人の著者も全山を愛するナチュラリストのよきものである。内容は、一般論に執着せず、著名な山を取り上げてその地形が具体的に紹介されており、肩がこらず楽しんで読める。雪氷の学に関係する事象として、氷河地形、周氷河地形、雪食地形、雪渓、雪崩、雪代などが取り上げられている。さらに、特筆すべきこととして、本書には、「山名と雪形」というタイトルで2頁にわたって述べられている。雪形マニアには見逃せない。(河島幹事 記)

『札幌の冬(さっぽろ文庫75)』

札幌市教育委員会 編/北海道新聞社/B6判/317頁/定価1,480円

本書は、昭和52年9月から刊行され始めた「さっぽろ文庫」の75冊目としてこのほど刊行されたものである。
内容は、「第1章 雪との闘い」、「第2章 北国の国際化」、「第3章 冬の特徴」、「第4章 冬の生活」、「第5章 冬のレジャー」の5つの章と「資料編」とから成る。

特に、第1章では札幌市特有の流雪溝、融雪槽、雪堆積場、ロードヒーティング、降雪情報システム等のハードウェアや、除雪パートナーシップ制度、マルチゾーン除雪等について詳しく述べられており興味深い。また、「凍結路面対策」ということで、いわゆる「つるつる路面」の発生条件や凍結防止剤の効果について述べている。ただ、すべりやすい路面によりもたらされるもう一つの被害として、歩行者のスリッパ転倒事故並びにそれを防止するためのすべりにくい履物やすべり止め等についても触れてほしいと思う。(小林幹事 記)

『砂時計の七不思議 —粉粒体の動力学—』

田口善弘 著/中公新書/新書判/198頁/定価680円

私事ではあるが、ある事情で毎週1回東京駅とつくばをJR電車か高遠バスで往復している。ところどころでバスの上りバスを利用することは、ほぼ30分近くは本で扱っている。粉粒体とは、砂や米などの粒々が多量に集合したもので、この意味で道路を走っている粉粒体の中には、雪崩や吹雪についての記事もあるが、著者は日常生活の中にある粉粒体の研究をとおして、新しい物理学の最先端と、目から落ちたところを数えてみてもいいだろう。(納口幹事 記)

季節の話題

鋸山の雪形「川の字」の出現日予想

気象庁が3月5日に発表した桜の開花予想をうけて、雪国ならではの自然暦である雪形の出現日予想を初めて試みた。この予想は、気象庁の開花予想日と独自の予測式を組み合わせで行ったものである。その結果、長岡市でみられる雪形「川の字」の出現日は4月30日となり、昨年よりも12日、過去30年の平均出現日（推定値）よりも10日遅い出現となりそうである。また「川の字」の出現日としては、1987年以降では最も遅いものである。長岡の皆さん、鋸山の山菜取りは5月上旬がねらい目ですよ。駆け出しの予想屋ですので、はずれてもお許しを。

（河島幹事 記）

機関誌

『雪氷北信越16号』発行のお知らせと

自由投稿文・広告の募集

北信越支部編集委員会では、平成8年6月1日に『雪氷北信越16号』の発行を予定しております。つきましては、下記の通り、随筆・評論的な自由投稿文を募集致しますので、奮って御投稿下さい。また、同誌に掲載する広告を募集致します。『雪氷北信越6号』最終頁を御参照の上、御連絡下さい。

1. 締切：平成8年5月7日（火）必着
2. 字数：3000字程度（用紙は自由）
3. 問合せ先：〒940 新潟県長岡市栖吉町前山187-16
長岡雪氷防災実験研究所 小林俊市（TEL. 0258-35-7522）

その他

『ニューズレター雪氷北信越』についてお願い

（社）日本雪氷学会北信越支部では、支部会員への事業の案内や報告のために、毎奇数月10日前後にニューズレターを発行しております。原稿を、下記の書式（できるだけワープロ原稿）で毎奇数月5日までに事務局にお送り下さい。

* 書式	A 4
	左右マージン : 25mm
	1行文字数 : 約32文字
	行間 : 約4.5mm
	行数 : 制限は設けないが手短に

なお、MS-DOSのテキストファイルの形式で保存したフロッピーでの投稿も歓迎いたします。

ニューズレターに関するお問い合わせは
長岡雪氷防災実験研究所 小林俊市

TEL. 0258-35-7522
FAX. 0258-35-0020

までお願いします。

総 会

総 会 & 研 究 ・ 製 品 発 表 会

第9回北信越支部総会および研究発表会・製品発表検討会のお知らせ

日 時：平成8年6月8日（土）10:30～17:30
 場 所：長岡技術科学大学A講義室（JR長岡駅よりバス30分）
 〒940-21 長岡市上富岡町1603-1（TEL.0258-46-6000）
 プログラム：10:30～12:00 研究発表会
 12:45～13:30 総会
 13:45～17:30 研究発表会・製品発表検討会
 17:30～ 懇親会（長岡技術科学大学第3食堂）

参加費：無料（ただし、懇親会参加費は3000円）
 予稿集：発表予稿集掲載の「雪氷北信越16号」を当日配布します。
 （日本雪氷学会会員：無料、非会員：1000円）

参加申込要領

参加申し込み：5月10日（金）必着 →総会・発表会・懇親会
 発表申し込み：4月19日（金）必着 （執筆要領は発表申し込みを
 予稿原稿提出：5月10日（金）必着 された方に送付。1頁）

送付・問い合わせ先：長岡雪氷防災実験研究所
 納口恭明または小林俊市
 〒940 長岡市栖吉町前山187-16
 TEL.0258-35-7522 FAX.0258-35-0020
 E-mail:nhg@nagaoka.bosai.go.jp

参加申込用紙（5月10日必着）

氏 名	所 属	連 絡 先
	〒	TEL. FAX.
総 会	発 表 会	懇 親 会
参加 不参加	参加 不参加	参加 不参加

発表申込用紙（4月19日必着）

氏名（所属略記，発表者に○）	題	目
連絡先 〒	TEL.	FAX.
発表種別（どちらかに○）	1. 研究発表会	2. 製品発表検討会